

精神保健福祉に関する制度とサービス

問題 61 措置入院にかかわる手続きに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 診察では、自傷他害のおそれについて、特定医師が判定する。
- 2 精神障害者又はその疑いのある者を知った者は、誰でも診察及び必要な保護を所管する市町村長に申請することができる。
- 3 警察官は、自傷他害のおそれがある精神障害者を保護したとき、直ちに、精神科病院に搬送することが義務づけられている。
- 4 検察官は、精神障害者又はその疑いのある被疑者や被告人について、不起訴処分又は裁判が確定したとき、市町村長に通報しなければならない。
- 5 都道府県知事は、現に本人の保護の任に当たっている者がある場合には、あらかじめ診察の日時及び場所を、その者に通知しなければならない。

問題 62 退院後生活環境相談員に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 措置入院者を担当する。
- 2 精神科病院を所管する都道府県知事が配置義務を負う。
- 3 退院後からかわり、生活環境を調整する。
- 4 担当する患者数の目安が決められている。
- 5 退院後7日以内に選任される。

問題 63 1993年(平成5年)に改正された障害者基本法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 国際障害者年の理念を実現するために改正された。
- 2 精神衛生法も精神保健法に改正された。
- 3 障がい者制度改革推進本部が設置された。
- 4 精神障害者保健福祉手帳が規定された。
- 5 福祉サービスの窓口が市町村になった。

問題 64 Gさん(40歳, 男性)は企業で働くサラリーマンである。家族関係でのトラブルをきっかけに精神的に不調となり, 精神科を受診し, うつ病と診断された。Gさんはしばらく自宅療養を行っていたが, 病状は改善せず, 心配した家族と共に再受診し, 入院となった。医師からは2か月の入院加療が必要であると診断された。しかし, Gさんは, 「会社休業中は給料が出ない」と訴えたため, 担当となったH精神保健福祉士は病氣療養中の生活保障のための経済的な相談に乗ることになった。

次のうち, H精神保健福祉士がGさんに紹介した制度として, 適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立支援医療
- 2 特別障害給付金
- 3 特定求職者雇用開発助成金
- 4 障害手当金
- 5 傷病手当金

問題 65 生活保護制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 家族と同居している場合、個人を単位とすることを原則とする。
- 2 在宅生活をする場合、生活保護か障害年金かの、いずれかを選択できる。
- 3 居住地と異なる市の精神科病院に通院する場合、当該病院を管轄する福祉事務所が、保護の決定・実施を行う。
- 4 精神障害者が申請する場合、資力調査は免除される。
- 5 1級あるいは2級の精神障害者保健福祉手帳を取得している場合、障害者加算がある。

問題 66 次のうち、都道府県が設置する保健所の精神保健福祉業務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳の申請受理
- 2 自助グループの組織育成、活動支援
- 3 精神医療審査会の審査に関する事務
- 4 診療報酬上の精神科デイ・ケアの実施
- 5 日常生活自立支援事業の実施

問題 67 精神障害者を対象とする施設等に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神病者監護法により、救護施設が法定化された。
- 2 精神衛生法により、精神障害者地域生活支援センターが法定化された。
- 3 精神保健法により、精神障害者社会復帰施設が法定化された。
- 4 「精神保健福祉法」により、障害者就業・生活支援センターが法定化された。
- 5 障害者自立支援法により、精神障害者地域生活援助事業が法定化された。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 68 大企業に勤務する営業職のJさん(45歳、男性)は、大学卒業後、仕事の付き合いでほぼ毎日深夜まで飲酒するという生活をずっと続けてきた。しかしこの1年で、前夜の記憶を失くすことが増え、接待の席でも酔って失敗するようになった。その度に陳謝し、酒量を控えると宣言するもうまくいかず、とうとう得意先を失いかけるという事態に至った。Jさんは、上司からの勧めで、産業医の診察を受け、アルコール依存症と診断され、病気の存在とその特徴について説明を受けた。そして、企業内のK精神保健福祉士から専門医療機関や自助グループへの参加の意義の説明と紹介を受けた。

次のうち、Jさんに紹介した資源として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 アラノン(AI-Anon)
- 2 アルコホーリクス・アノニマス(AA)
- 3 ナルコティクス・アノニマス(NA)
- 4 断酒会(全断連)
- 5 ダルク(DARC)

問題 69 「医療観察法」の処遇内容に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 入院処遇は、急性期、回復期、終結期の3段階に分けられる。
- 2 通院処遇は、指定通院医療機関で行われ、その期間は1年6か月である。
- 3 指定入院医療機関の管理者は、入院の継続が必要と認めた場合、地方裁判所に入院継続の確認の申立てをしなければならない。
- 4 処遇内容に不服がある場合、精神医療審査会に処遇改善請求ができる。
- 5 審判における処遇決定に対し、行政不服審査法に基づく審査請求ができる。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

(精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題 70 から問題 72 までについて答えなさい。

[事 例]

Web デザイン会社に勤める L さん(30 歳, 女性)は, 結婚を前提に交際している M さん(35 歳, 男性)に誘われて覚せい剤を使い始めた。L さんは覚せい剤使用について本当は嫌だったが, M さんに嫌われるのが怖くて断りきれなかった。その後同居を始めると, M さんは些細なことで L さんに暴力を振るうようになった。ある日の夜中, M さんの怒声を聞いた近隣住民が警察に通報し, 二人とも逮捕された。M さんは刑事施設へ行くことになった。L さんは保護観察付執行猶予判決を受け, 本人の希望によりあるプログラムを受けることになった。(問題 70)

L さんは実家に戻って平穏な生活を送っていたが, 数年後に, 出所してきた M さんと街で偶然再会し, 時々会うようになった。両親は交際を反対したが, 一緒に覚せい剤を使って再逮捕されるに至った。今回は L さんも実刑判決を受け, 刑事施設に入所することとなった。その後, 少し気持ちが落ち着き, L さんは出所したらいったん自宅に戻って, 蓄えていた 100 万円を基にネットショップを始めたいと考えていた。しかし, 仮釈放のことが気になり始めたころに, 身元引受人になってほしいと両親に手紙で打診したところ, M さんとの交際をやめるようにとの忠告に逆らった L さんを信用することができないと, 同意を得ることができず, 仮釈放の許可決定が得られなかった。刑期を終えた L さんは, すぐにある施設に入所した。(問題 71)

その後 L さんは, 施設を退所してアパートを借り, そこで Web デザインの仕事を始めた。覚せい剤とは手を切り, 作業に明け暮れる日々を送っていたが, 時々他人の視線が気になるようになった。また, 「もう使わない」と固く決心をしていたにもかかわらず, ふとした時に, 無性に覚せい剤を使いたいと思うこともあった。不安になった L さんは, インターネットで情報を集め, 自分は薬物依存症かもしれないと思い始めた。万一にも入院ということになるのは嫌なので, 病院ではなく, 近くの保健所を訪れ, A 精神保健福祉相談員による面接を受けた。(問題 72)

問題 70 次のうち、この時点でLさんが受けることになったプログラムとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 しょく罪指導プログラム
- 2 覚せい剤事犯者処遇プログラム
- 3 自立支援プログラム
- 4 職業能力形成プログラム
- 5 暴力防止プログラム

問題 71 次のうち、この時点でLさんがまず利用した入所施設として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 更生保護施設
- 2 地域生活定着支援センター
- 3 社会復帰促進センター
- 4 救護施設
- 5 自立更生促進センター

問題 72 次の記述のうち、この時点でのA精神保健福祉相談員の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 保護観察を受けたことがあるので、保護観察所に連絡する。
- 2 保健所で定期的に行われている精神保健に関する相談を利用することを勧める。
- 3 覚せい剤は違法薬物なので、警察に通報する。
- 4 断薬継続に向けた自助グループについての情報を提供する。
- 5 薬物依存症が疑われるため、緊急措置入院の手続きをとる。